

## かっぱ漫談（４・７・１８）

松村

恒（昭11・理甲）

この会の話は大変程度が高くて、学会誌の総説論文位にあたるのが沢山ございますので「そういう所へ私が話してもええのんですか」とお聞きしたところが、「まあ、そういう男もおつてもええやろう」ということで、今日は若干お話をさせていただけだと思います。

「かっぱ漫談」という名前をつけられましたけれども、この、かっぱというのは京都では「が太郎」という名前でございます、そこに谷口八星さんの本がございますが、それによりますと大正年代の鴨川にはかっぱがおつたそうです。その証拠には、沢山子供が河童にやられて川で溺れて死んだそうです。かっぱというのはまあ想像の動物かもわかりませんが、日本各地におるようで、特に九州にかっぱが多いようです。九州ご出身の方がございましたらご教授を願いたいと思います、かっぱは中国では「すいこ」と申し、水の虎と書きまして記載があるようでございます。それがどうも九州地方に上陸した模様です。

今日はそのかっぱの話ではなしに、私が多少関係しておりました水泳、特に競泳の施設についてお話を申し上げたいと思いますが、中には大部あやしいのもございますし、「そら違う」という様なことがございましたら後程ご指摘をいただきたいと思ひます。「水泳」という言葉は最近の言葉で今日言う「水泳」は、明治の中頃京都武徳会では「游泳」という言葉を使っております。「游泳」。遊は遊ぶという字のしんにゆうのかわりにさんずいを書いた「游泳」で一方京一中では「泗水」という言葉を使っております。「泗水」というのは、さんずいに囚人の囚という字を書いた「泗水」です。観海流で「泗水術」という言葉を使っております。現在はこの競泳大会につきましては「水上競技大会」という言葉で、大体統一されているように思ひます。私がプールについて関心を持ちましたのは、京都で始めてプールらしいプールが出来たのは京大でございますが、レジユメに書きましたように、これは大正十三年七月十八日、竣工式をやっております。ところがいろんな本を見てもみすと、京大のプールが出来たというのは大正十四年説と大正十三年説と二つございますので京大の建築史学教室へたずねましたところ、大正十三年に出来たことは出来たけれども故障が多くてあんまり使いもんにはならなかつた。実際に動きだしたのは大正十四年だと。それで世の中に両説が行われているように思ひます。この大正十三年に、三高が出来たての京大プールで校内大会をやっておる記事がございます。当時の方にいっぺんおたずねしたいと思ひますが、どういふ具合にやられたのかしらんと、大變興味の深いこと

でございます。前へ戻りまして、日本でプールが出来ましたのは色々記載ございますが、まず京都附近を中心に考えますと茨木中学のプールが大変古うございます。大正五年に出来たそうです。そして大正八年に五〇mに改造いたしております。茨木中学は又杉木伝すぎもとさんという大変熱心な体操の先生がおられまして、この方が体操の時間に全校生徒に水泳を教え、特にクロールを教えたそうであります。はじめてというのはちよつと語弊がございますが、二〇〇mをクロールで泳いだのは茨木中学の生徒が最初だそうです。当時二〇〇mというのは水泳でも長距離に属したものでございまして、大正末期の水泳大会はコースロープがはってございませぬ。コースロープがはってありませんからターニングをしていううちにどっかよそへ向いてしても正確に泳げません。ですから二〇〇mも三〇〇mも四〇〇mも泳いだらどこへ行ってしまうかわからんと、こういうことでおそらく二〇〇mが長距離だったのでありましょう。しかも長距離と言ってもクロールでなしに横体泳法か何かで泳いだように思われます。

三高に競泳を主とする水泳部が出来ましたのは、大正十四年か五年で、十三年に校内大会をやっておりますから、十三年頃に競泳を主とした方々の集りが出来たようでございます。それまでは水上運動部の中にボート部とそれから広義の水泳部とあったようでございます。明治四十五年、三高の水泳部が宮津の方で水上大運動会、というのをやっております。しかしその種目の大部分はいわゆる日本泳法の演技で、その中に若干遠泳なんかを混えてやったようです。もともと

は水泳というのは日本泳法でありまして、競泳らしいものは長距離。例えば「一番はじめに大阪から御影まで泳いだ」とか、そういう長距離の耐久泳法で、その日本泳法と耐久泳法と。そういうものが水泳であったようでございます。初期三高の水泳部もその時分にやはりサマーハウスのような格好で海岸へ行って合宿し日本泳法や遠泳をやったらしい。大正二年には、京都大学と泳ぐとも同じなら先生もおんなじやったらいいっそ合併したらどうやいうて京大と合併したような記載が残っております。競泳に大体距離が決まっておりませんと競泳になりません。ですからプールがどうしても必要であった訳です。それまでは海の中にスタンド二台をつくって、その間を往復する。その以前は船を二つ浮べまして船の間を往復して泳ぐと、そういう形式であったように思われます。どうしてもそれではいかんということで、大正十二年に大阪の築港で極東オリンピックがありました前年に築港のプール、立派なプールが出来た訳です。これは長年にわたって使われ、我々も競技に参加しましたが、これが関西では記念すべきプールでございます。その当時関西の水泳界で茨木中学がクロールの泳ぎ方を、発明したという大袈裟ですけれども競泳にクロールを使ひ出したのです。この大正十二年の極東オリンピックで茨木中学の高石なんかは堂々とクロールで泳いでいい成績を納めた訳でございます。京都でははやくから夷川のダムで武徳会が游泳の講習をやった訳ですが、その武徳会に、大正の初めに茨木中学の刺激でやっぱりクロールを泳ぎだした人がありまして、すでに芝浦でオリンピックをやった時に、京都武徳会の選

手で白山さんという方が出場しておられます。京都でどうして練習をしたのかしらんと思いましたが、古い記載に、あそのこのダムで何べんも往復して練習したと出ております。今測って見ますと東西が約一〇〇mございます。南北は、南の端の方が疏水が流れておりますからどうしても泳げませんので、それで東西に往復しまして競泳の練習をやった模様でございます。ところがそれまでのヤード制からメートル制の競泳がだんだん普及致しまして、大正十二年にダムに五〇mの競泳のスタンドが出来ました。これが京都における競泳施設の初まりでございます。その時分から京都にもあちこちプールが出来まして、例えばはやく乾隆小学校のプール、或いは南禅寺に市立プールが出来ました。南禅寺のプールは、ご存じの方もあると思いますが、きっちり測ったならなんぼあるのか知りませんが、広く浅い、水遊びをする水溜りと、それから西の端に三〇m、約三〇m程の競泳が出来る池がございました。で、そこは二五mの競争をするために途中で橋がかかっておりましたから、おそらく三〇mか、或いはもうちょっとあったのかもわかりません。世の中には妙なプールがございまして、そこにちょっと書きましたように三三mのプールがあった訳です。三三mのプールが大阪の真田山と東京の井の頭にあったようです。で先日三高会館で「三三mでおかしなプールやな」言っていましたところ、井垣先生のいわく「それ三〇・三mのプールと違うか。尺貫法で一〇〇尺のプールをつくりよったんやぜ」と。これは井垣説でございます。

そこで、大正十三年に京大のプールが出来ました。これが京都のプールの原型でございます。このプールの設計書なんか全然残ってないそうです。京大の建築史学研究室にそう言うておられるんですから、おそらくもとのデメンジョンもわからないと思いますが、これがえらい間違いとるか三mの飛び込み台を作ったが為に深い所を三mにしてあります。一中のプールは二五mに一四m、それから深さが、深いところが三m。又三mと一mのスプリングホードがありました。これはそっくりそのまま京大の真似でした。又工事が安上がりになるかどうか知りませんけれども、生徒をばうて掘らした訳です。今なら一時間か二時間でパワーシャベルが掘ってしまふような、それ位なところでございますが、夏休みに我々生徒が二回行ってアンパンひとつもろて喜んで帰ったことを覚えております。ところがその三mの深さ掘った為に、三mの水圧で底が割れる訳です。そうして一定部分がしばしば割れまして、排水ポンプはこわれるは水は漏れるは、しかも全部水が溢きらないということでは非常な苦勞をいたしました。三高の偉い先生はそれを知つたのか知らんのか、一中、京大で苦勞をしたのにもかかわらず三高のプールをおんなじデメンジョンで作つた訳です。それで、これまたおんなじことで、水が漏れるとかいろんなことが起りました。水がなかなかようけいするんで、私が理事の時に嶽水会の子算会議で「水代がようけいから水泳部は予算使ひすぎる」言うて折竹先生にえらい怒られたことがございます。それまではどうもメーターが壊れとつたんでなんぼ入れてもメーターが回らなんだと。それで気易う気易う水

入れとつたんで、ところがメーターが直って水代が非常に高くついて予算上に文句が出たと、こういうことでございます。

現在のプールは皆さんご覧になってもわかりますように、プールというもんは底が見える訳です。つまりきれいなきれいな水が入るとる訳です。これは何か、プール衛生法か何かいう規定があるんじゃないかと思いますが、プールの水は濾過処理をして常時きれいにせないかん、ということになっております。我々の時は三日たつたらみな青ミドロがはえて青い青いプールの中で、もう禪も何も皆青染めでございました。そういうプールで、昔は平気で泳いでおったということでございます。水泳部は水替やいうたらタワシを持ってプールの底をゴシゴシ、ゴシゴシこすらないかんのです。そういう難儀をしながら、一生懸命泳いだ訳でございます。当時は四月から泳ぎはじめて新嘗祭まで泳ぐのが常でございました。又正月に張った氷をよせて寒中水泳もする訳でございますが、三高の寒中水泳は「あれをやらんと東大へ入れん」という迷信がございます。東大ご受験の方はみんな、みんなでもないですけれど、しっかり寒中水泳をしていただきました。

当時の水泳で、何故日本が強かったかといえますと、やはりクロールが上手に出来た訳です。で、クロールがどんなに珍しかったかという、高石が東京の方へ中学生の時に行ったら、試合がすんでも帰してもらえずに、みんな高石を泳がせて、その泳ぎ方を習うたそうです。で、前も

申しましたように、二〇〇mが長距離で横泳ぎか何かをしておったようですのに、茨木中学の連中は二〇〇mでもクロールで泳ぎよる、とこういうことで、当時日本泳法の小堀流に「早抜手」というのがありまして、これがクロールと同じやということを言われましたが、早抜手ではそれは続かないんです。せいぜい一〇〜二〇m位です。クロールというのはいかにいい泳法であるかということがわかった訳です。私が一番はじめクロールを見て、「これは速いな」と思ったのは、高石と茨木中学で同年でありました入谷という人が同志社におりましたんで、この人の泳がれるのを見ましたら、まるで糸で引張つてるように、そう波もたたんにスルスル、スルスルと。我々で言う「滑つとる」と、こういうことをごいまして、当時我々はどんなことに気をつけたかという、空中で手の振り方、手の格好ですね。手の格好をいかにしたら上手いこと泳げるかと考えて、そんなことばかりやっておったんですが、実はそうでなくて、やっぱり水中で手水を押し下げる。これが大事でございまして、上手な人の泳ぐのを水の中から見て工夫をすべきもんでございます。京都では武徳会にその入谷さんが入ったり、又、初期にいろいろと研究してクロールをやった人があるようでございます。

ここにひとつ面白い話がございます。大正六年に、三高のラグビーの大先輩であります香山蕃さんがクロールをやってみせたそうです。大正六年にクロールをやったいうたら非常な、その、新しいことで、香山蕃さんは諸芸一般に通じておられたそうですけれども、水泳にも大変研究心



があつたということ、これもある本に書いてございます。さつきも申しましたように、大正十二年に武徳会に五〇mのスタンドが出来ました。これが京都の水泳のひとつの契機になつた訳です。それから京大にプールが出来たり、各所にプールが出来まして、色々と水泳が盛んになつた訳ですが、当時、三高へ地方から出て来られた人が、武徳会のダムで泳いでゐるのを見て、なんと京都の人は汚いところで泳いだるな」と。「我々は皆、底の見える海で泳いだるのに」と。こういうことでびっくりした、と。こういう話が残っております。それでも当時、私の子供の時分の武徳会では、九月にはもう底が見えました。夏は若干濁っておりますけれども九月には底が見えました。ですから、かなりきれいではあつたんですが、もう現在は見る影もない汚い水になつてしまいました。大正十二年頃から水泳が、水泳というよりか水上競技というのがいろいろと出て来まして、これにもやはり指導者が大変大事で、指導者が立派であれば皆、水泳が強くなつた。京都では、そのように武徳会が中心になりまして泳法の研究をやつた訳です。もちろん武徳会は、いわゆる日本泳法の小堀流を教へておつた訳でございますが、同時に競泳部というのがございまして、別に競泳もやつておつた訳です。そこが中心になつて京都の学生（三高も含め）競泳が起つたのであります。二商、或いは一中という具合に学校の水泳部が盛んになりました、この水泳競技のところを見ていただきますと、大正十四年頃にインターハイとか、或いは一高三高の水泳競技とか、それからインターミドル、そういうものが一斉にはじまつております。大

正十三年に、もうすでに滋賀県の中等学校の大会がございましたが、今津中学というのが、第二回かそこらに優勝しております。膳所中学は琵琶湖にスタンドをつくって練習をしておったようですが、琵琶湖周辺にそういう水泳施設が沢山出来ました。当時滋賀県の今津中学は校長さんが東京高師のご出身であつて、東京高師出身の小野田という有名な水泳選手がおりましたが、その小野田が友人であつたために引つ張つて来て競泳を習つたら、今津中学がいつべんに速よなつたと、こういうことでございます。

昭和の初めのロスオリンピックで日本は非常に優秀な成績を納めました。これは一にあの当時の日本の泳法が良かったからであります。その時一五〇〇で優勝しました北村久寿雄君ですね。北村久寿雄君は高知商業の三年生でオリンピックの金メダリストですが、同君は後に三高へ来ました。これには大変面白い因縁がございます。当時三高では、ご存じと思いますが入学試験の後で運動部の部屋を通して入部を勧誘する関所がございました、要領のええ奴は「はいります」「はいります」と名前を帳面に書いて、どんどんどんどん通つて行く。それが入学してから呼び出して「おいお前、水泳部入る言うた」「私、泳ぎよう知りません。よう泳ぎませんねん」と、そういう男がおつた位ですが、その場所に溝渕校長が来られて「水泳部のもんおらんか」とこつういう訳でございます。で、私が行きますと、「おい、何はその、受けに来ちよらんか」とこつう言う。「何てわかりませんがな」と言つたら「それはオリンピックで優勝した奴じゃ」「オリンピック

クで優勝したいたら北村久寿雄ですか」言うたら「そうじゃ、まっことそうじゃ」と。そやか北村久寿雄が来るといふことは知りませんでした。溝淵校長は高知の方ですから、高知の因縁で何かそういうことを聞かれたんじゃないかと思ひます。で、その辺のことを調べてみますと、ロスから帰る船の上で、総監督であつた末広巖太郎という有名な先生（一高水泳部の大先輩）が最後に訓示をして「お前らは、たかがオリンピックで優勝したんじゃ」と。「これから社会に出てそんなこと鼻に掛けてはいかん。今からまともに学校で勉強せえよ」といふことを言はれたそうです。それで北村君もそう思つたらしいんです。

その後、岡山四郎といふ三高の水泳部の名物男、その人が関西水上競技連盟の執行委員をしておりまして北村とは知り合ひであつた訳です。それで私はその人と相談して、どうしようか、こゝしよかと言つてうちに、高知商業の水泳部の部長さんで福井といふ先生。相撲部を率いて堺の全国相撲大会へ来るといふ情報がありましたんで、岡山先輩と二人、堺の宿屋へ行つて、福井先生に話をしました。「福井先生、是非その北村君、三高受けさせて下さい」と、言いましたところ、福井先生は「あの男は成績がええきに、名古屋高商に推薦入学が決つちよる」と、こゝう言つてすね。ほいで「そんなこと言わんと、まあ受けさせて下さいや」と言つて頼んだけれど、これは確信が持てなかつた訳です。ところが、当時の三高の水泳部長の深瀬さんがやつぱり高知の人であつたので深瀬さんも何か動いて下さつたんだろうと思ひますが、昭和十年に北村君は三

高を受けた訳です。その結果は合格しませんでしたけれども、成績が非常に良くて合格スレスレの所であったようです。その昭和十年は、早稲田は高知商業の先輩が沢山おりましたから、「俺んとこへ来る」と言うし、一高の方も当時のオリンピックの水泳監督松沢一鶴さんが一高先輩ですから、「俺んとこへ来る」と言うし、これはもう、どうしたことだろうなと思つてるところが、やっぱり三高を受けてそういうギリギリの所で落ちたということ、もう北村君は腹を決めて浪人し、翌年三高を受け、無事に十一年には三高の水泳部員になった訳です。それで、ことのおこりは、溝淵校長が「オイ、あれは受けに来ちよらんか」と言うのがはじまりでございまして、溝淵先生はなかなかええ事を教えて下さったなと思つて、私は大変感謝を致しております。岡山先輩は、水泳のエンサイクロペディアでありまして、三三三のプールがあるということを教えてくれたのは岡山先輩です。で、岡山四郎さんはその後、琵琶湖水泳協会長として琵琶湖の水泳に大変力をほどこしたということで、勲五等旭日章をもらわれたと思ひます。三高の卒業生の中で勲章をもらわれた方は沢山おられますけれども、水泳で勲章をもらた人は岡山さん一人だろうと思ひます。あの人はなかなか豪傑でありましたけれども、不幸にしてガンで、昭和と平成の境目に死んでしまいました。私は、誠に悲しいことであると思つて葬式に行つて弔辞を申し上げておきました。

水泳の名人のことで岡山さんの話が出ましたが、皆様ご存じかと思ひますが、戦前から御影の

お医者さんで藤井正太郎しやうたろうさんという方がございます。この方は藤井龍角散りゆうかくさんというて東京の有名な薬屋さんの坊ちゃんでございますが、水泳が大変好きで、京大の水泳部の初期の方で明治四十四年、医学部の卒業です。浮身が大変上手でございますして、私はいっぺん見たことがございますが、畳の上でころがっているように水の上をコロコロところがりますし、水上で昼寝が出来るんじゃないかと思う程、横向いても浮いてる方でございます。皆さんご存じの三高の東門の前に美留軒という散髪屋がございましたが、ここに藤井さんが下宿しておられました医学部から帰ってこられると畳の上で水泳のけいこをしておられたそうです。畳の上の水練とはまさに藤井正太郎しやうたろうさんのことでございます。藤井さんはその後関西学生水上連盟の会長をして非常に我々お世話になりましたが、又こういう伝説がございます。これも美留軒のぼんにきいたんであんまりアテになる話やないんですけれども、当時きれいな小川が楽友会館の前にも流れておったんやないかと思えますが、「楽友会館の前で浮身しはったそうですな」と。そうちよつとおかしいけど、まあとにかくそういう話が出る程藤井先生は浮身の名人でございました。神戸の方はご存じと思えますが、あの辺で非常によく水泳のお世話をなさいまして沢山お弟子さんがございます。

明治三十年頃一高の生徒が、千葉県館山市八幡海岸で水泳の合宿をやっておりましたら、たままたまその宿に丹波篠山の殿さんが、当時篠山から東京へ遊学に来ておった学生どもを集めて、海水浴をして居たのです。その篠山藩の方はさかんに意気をあげて「デカンシヨ節」と歌うた訳で

す。それがたちまち一高の方へ伝染をしまして、一高の水泳部は寮へ持って帰って一高全体にひろがり、それから更に各地の高等学校へ広がった、というのが「デカンショ節」の広がりのもとでございます。ご興味のある方は『向陵』（一高同窓会誌）に南君というて昭和12年の理甲の出身の方が書いておりますからお読み下さい。そして今丹波篠山で「デカンショ祭」というのがございまして、それに出て来いということで南君から私に誘いがございまして、私が「ちよつとその、もう、丹波篠山にデカンショ節歌ひに行く元気ないわ」ゆうたら、その後、三高の有志の方が、毎年出席しておられます、行って大いに氣勢をあげていただいておりますので、誠にありがたい。と、こういう場所で、お礼を申し上げます。丹波の篠山の青山という殿さんがデカンショ節のはじまりでございますが、もう一人青山という殿さんが、岐阜県の山奥の郡上という所におりまして、その郡上には「郡上節」というて非常にええ歌がございまして。しかも両歌に共通の文句が沢山あるのは不思議でございます。青山さんお二人共歌がお好きであったかどうか、これは私を知る限りではございませんが、「デカンショ節」は一高ではじまって、デカルトとカント、シヨールペンハウエルからデカンショが出来たというのは一高でこじつけてつくった話のようでございます。

それから、水泳というものはラグビーと違って、そう事故があるまいと思はれますが、私が見た事故がございまして。これは八瀬のプールでインターミドルがあった時に、二〇〇mリレ

ーのはじめの人がむこうのターンの壁がわからずに激突して額を切ったことがございます。それからもひとつ、これは三高の方ですが、やっぱり二〇〇mリレーの一番を泳いで、気管支に水が入って、大苦しみに苦しんで病院へ運びこまれました。そのように、水泳の競泳でも、そういう事故があるのでございます。もちろん心臓マヒとか、或いはケイレンとか、そういうことはあるとは思いますが、そういう珍しい事故を、私が実際に見ております。

八瀬のプールが出来た時（大正十五年八月）に一番はじめに使ったのが三高の水泳部やないかと思うんです。それは八瀬のプールが出来た二、三日後に一高が東京から来まして、それを八瀬のプールへ案内して練習をしてもろたということが水泳部誌（ツツカーワッサー）に出ております。

三高のプールが出来ましたのが昭和五年でございますが、この時に、嶽水会誌を見ますと、先生方が夏のボートナスを寄付されたとか、或いは同窓会が五千円ずつ二回寄付したとか、或いは南運動場の東端にプールを作るが為に陸上部が「走るコースがせめられるやないか」というてえらい心配したとか、なかなか、水泳施設のプールなんていうものは後から出来るもんでございまして、とかく問題がおこるようでございます。現在、三高のプールは影も形もありません。京大のもとプールはあるかと思いますが、現在水泳プールではありませんし、本当のプールは西部構内にあります。京都のプールで二商のプールがはやく大正十五年に出来ておりますが、この二商

のプールで、注目すべきことは、見物席のスタンドがお土居でありまして、プール自身はお土居の堀であったようでございます。このプールは目玉の松ちゃん、息子が二商におったために、大枚の金銭を寄付して出来上がったそうです。当時はそこに書きましたように小学校のプールがかなり早く出来て居ります。小学校の方がプールの建設が認められやすかつたんじゃないかと思えます。京都のプールでもひとつ注目すべきことは、府一のプールでございます。府一のプールは非常に設備が良くて、室内温水プールの仕様であった訳です。これは終戦後、進駐軍が接收したという話をききます。

八瀬のプールは、はやく正式の計測をやっております、昭和四年の八月十四日に鶴田義行が2分45秒の二〇〇m平泳の記録をつくりました。これは公認プールで記録されたためにその後長い間、公認世界記録でございました。

三高の明治四十五年の第一回水上競技大会には、表の現在公認の日本泳法とその発祥地と書いた、その表の星印をつけた、それだけの流儀が演技されたようでございます。これらはすべて神陵史記載です。

最後になりましたが、京大のプールは、農学部施設を作るということで予算を流用して農業用水池ということで作ったがために会計検査でひっかかりまして、当時の荒木総長はえらい目玉をくわれた。という話でございますが、しかし私、ある三高の先輩の方からききますと、荒木さ



んはなかなかユーモアのある方だったらしく「これが、農業用の貯水池であるなら、真ん中にコースのラインがひいてあるのはなんじゃ」と、こう会計検査員にきかれたら、荒木総長は「あつ、これは魚を泳がす時に、まっすぐ泳がす為にひいてあるんだ」と、そういつて悠然としておられた。この話はあてになるかどうかわかりませんが、とにかく、農学部建設の費用を流用したことで、大部問題になったように書いております。

とりとめの話をさしていただきましたけれども、ここで森の六ちゃんの話、六ちゃんというといらい失礼ですけど、森先生は、やっぱり水泳部の選手だったらしくて、我々の時には教授になられて部長でございましたけれども、まあ一応アレストの格好をしておられました。あんなに速くはなかったように思います。ところが森先生のお父さんの森外三郎という方が、ある記録を見ますと、水府流で生徒の前で泳いだ、とこういうことが書いてございますんで、森先生はやはり、お父つつあん譲りの水泳の素質はあつたように思います。

最後になりましたけれども、「水泳」とか「プール」というのは俳句の季題でございまして、詠んだ句が沢山ございます。秋桜子の句で、「遠泳や高波越ゆる一の列」という句があります。又、山口誓子先輩が、昭和十四年の嶽水会雑誌に、「プール」という題で連作を出しておられます。その最後の句に「青緑のプールを出でて歩み去る」これは誠にその通りでございまして、その時に青い、青ミドロがはえておるプールはどこにでもあつたんで、「青緑」の「緑」をとり上げ

## 初期（京都付近を主として）競泳施設建造状況

竣工	場所
大正5	大阪茨木中
大正6	神田YMCA 室内20yd
8	茨木中プール50mに改造
10	Intercollege 神奈川県生麦三笠園池直線100m
10	第一回全国競泳大会100×30m 塩水プール弁天島に完成
11	大阪築港市立運動場50m；大正12年極東大会
12	羽田プール 50m
12	芝公園プール 50m
12	夷川船溜木製スタンプ 50m（それ迄ヤード制）
12・6	京都乾隆小学校プール 25m
12・8・13	南禅寺市立プール 30m及遊泳池
13・3・1	京都仁和小学校プール
13・7・18	京大農学部プール 25m
14	京都小川小学校プール
15・8・3	八瀬遊園プール 25m cf大正15, 7, 15. 一高, 宇佐美プール
15・8・12	京二商プール 50m及25m

15	柳ヶ崎木製スタンド	50m	cf 昭和2, 6, 京都上加茂游泳講習場開
昭和4・7・26	京一中プール	25m	
4・9・30	京都梅屋小学校プール	25m	
5・7・28	三高プール	25m	
5	京府二女プール	25m	
6・4	京府一女プール	25m	: 室内温水

cf 昭和4-8-14八瀬プールにて、200m平泳世界記録鶴田義行2分45秒0を記録。  
: 大阪真田山, 東京井の頭33.3m.

参考文献:

- 京大学友会誌30号 (大13年12月),  
 明治大正昭和京都学校園沿革史、  
 日出新聞 (大14年)  
 京都の歴史巻10 (京都市史編纂所昭和51)  
 水連40年史 (昭44・7・1),  
 踏水会80年史 (昭50・8・1)  
 京一中洛北高校百年史 (昭47・7・20)  
 鴨沂会誌128号 (平3)  
 蹴水会誌106号 (昭6年3月)  
 向陵史 (復) (昭59・12・1) II

## 初期水泳競技 (特に競泳) 大会

- 1861(文久元) 7・10 : 世界最初の水泳競技会、英国Brighton水泳クラブ 100, 60, 200yd  
 1896(明29) 5・1 : 京都武徳会競泳大会、疏水夷川舟溜、10間ごとに杭を立てた。  
 1898(明31) 8・12 : 横浜外人村太田流、横浜波止場、舟2隻100yd間隔 100, 440, 880yd  
 1905(明38) 8・20 : 大毎主催、大阪天保山—御影間 海上10mil  
 1913(大2) 8・9 : 大毎主催、第1回関西中等学校遊泳大会浜寺  
 1914(大3) 8・10 : 日本体育協会 第1回全国水泳大会 大森100m  
 1915(大4) 大毎主催第1回全国中等学校競泳大会 浜寺  
 1917(大6) 第3回極東オリンピック 東京芝浦 yd制  
 1923(大12) 大毎主催第9回全国中等学校競泳大会 大阪築港 50mプール  
 1923(大12) 5・22 : 第6回極東オリンピック 大阪築港 50mプール  
 1924(大13) 9 三高校内水泳大会 京大プール  
 1924(大13) 第1回滋賀県中等学校水泳大会  
 1925(大14) 7・24 : 第1回京大主催高専水泳大会 京大プール  
 1925(大14) 10 第1回京都府下中等学校水泳大会 京大プール  
 1926(大15) 第1回京都府下中等学校水泳大会  
 1926(大15) 8・20 : 第1回一高三高対抗水上競技 京大プール  
 1928(昭3) 8・2 : 第1回全国高等学校水上競技大会 京大プール (決勝)

現在公認の日本泳法とその発祥地：

水府流	★	(水戸),	観海流	★	(津),
水府流大田派		(江戸),	神伝流	★	(伊子大洲),
向井流		(江戸),	水任流		(讃岐高松),
能島流	★	(和歌山),	山内流		(豊後臼杵),
岩倉流		(和歌山),	小堀流	★	(熊本),
小池流		(和歌山),	神統流		(鹿児島),

★は (明45) 島崎海岸 (宮津湾) 於ける第一回三高水泳部水上大運動会にて演技.

参考文献

水連40年史.

踏水会80年史.

秦乾太郎：獍猛の意気,

松沢一鶴：水上競技.

京一中洛北高校100年史,

京一中学友会誌及び年報.

神陵史, 蹴水会誌, 図説紅萌ゆる丘の花 (第三高等学校80年史).

ソッカーワッサー (三高水泳部誌).

京大史記.

観海流のてびき.

て詠んであるのが非常に私には印象的であります。誓子先輩にここでいっぺん話をしてもらうとええんですけど、如何なものでしょう。

大変とりとめもない話をしまして恐縮でございます。どうも失礼をいたしました。